

心理士と鍼灸師 どちらが稼げるか

よしむら心理相談室 吉村美智織

人気のダンス&ボーカルユニット、新しい学校のリーダーズをご存じですか？

彼女たちのコンセプトは「個性や自由ではみだしていく」でした。彼女たちは本来「はみだす」というネガティブな言葉をポジティブに使いこなし、大活躍しています。

私も心理職から「はみだし」、鍼灸師の資格をとり、目下、猛勉強の毎日です。ゆくゆくは心理学と東洋医学を融合し、新しい治療体系をつ

くり、来談者の役に立ちたいと思っています。

はみだして何が悪い

今日は、長引く不況、政治の不安定、天災や疫病など、様々な原因で閉塞感につつまれています。心身共に疲弊し、余裕がない人が増えています。ネットで国内外の情報を大量に知ることができ、自由に考える材料を手に入れられるようになりま

した。その反面、社会の管理が進み、同調圧力が強くなり、他者に対しての寛容さを失っている人が増えていきます。

そんな中で、私が心理士として、鍼灸師として治療の場では会う人々は、ある意味、現在の社会、教育、医療、福祉の制度からはみ出している人、と言えるかもしれません。そのような場で、画一的に分類し、レッテルを張ってマニュアルで支援、治療していいのだろうか疑問に思います。

「多様性を受け入れ、尊重する」とよく言われていますが、実際は、反対方向に進んでいる気がします。

さらに、心理業界では、公認心理師という国家資格ができ、保険医療に組み入れられようとしています。しかしこれは、心理職が医師の下請けのようになり、公認心理師の自主性、独立性が脅かされていくように感じます。他の専門家との協力は必要ですが、なぜ、心理職の臨床に医師の指示・同意が必要なのでしょう

か。
これは、心の健康を保ちたいと支

援やサービスを求める来談者、患者の選択の自由が奪われることにならないか。状態にあった高い専門性をもった専門家に会おうまでに、来談者自ら探し求めなければならない苦労を負うことにならないかと考えます。これでは、良い意味で「はみだしていく」余地がなくなってしまう

どこが違うの
心理士と鍼灸師

今回のこのテーマを聞いた時、この2つはあまりに違うので直ぐには答えがみつかりませんでした。まるで「人間とペンギンはどこが違うの？」と聞かれているようなものです。

心理学は心を科学する学問です。東洋医学は人間を1つの有機体として心と体を分けずに丸ごと治療していく医学です。

心理士は主に言葉で治療をしますが、鍼灸は言葉も使いますし、鍼をはじめ様々な治療道具を使います。鍼灸師は心にもつわる専門職ではありません。仕事の中で心にもまつわ

りますが、心を専門としているわけ
ではないです。私の中では心理学は、
東洋医学の一部分であると考えてい
ます。したがって2つは切っても切
り離せないのです。

一方で、心理学は心の科学、心の
理論をもとにしてつくられてきまし
た。それが私たちの文化に合ってい
るのか。治療原則や臨床的原则を重
視しすぎて頭でっかちになり、他の
考え方や方法に対して不寛容になっ
ていないか。来談者や患者の本来の
願いやニーズが見えなくなっていな
いか。それらが心を専門にしすぎる
ことの弊害として起きていないかと
考えます。

「また来たい」と思って
もらえるように

心理士と鍼灸師の共通点は、人の
支援、治療を行っているということ
です。人を対象としています。共通
して大事なことは「来談者、患者の
困りごとを解決、改善し、相手にま
た来たいと思ってもらうこと」だと
考えます。仕事を通して考え続け、
現在私の中で「来談者、患者が自分

で自分の困りごとを解決、改善でき
るように支援、治療すること」も目
指すことのひとつとなっています。

「また来たいなと思ってもらえるよ
うに」。この言葉は、臨床心理士と
鍼灸師の二足のワラジを履こうと東
洋医学を勉強し始めていた時に、あ
る先生に質問して返ってきたアドバ
イスです。

カウンセリングも鍼灸治療も多く
の場合、自費治療になります。相手
に「二度と来たくない」と思われた
ら、成り立たない仕事です。これは
あらゆる商売、サービス業で共通
することです。「また食べたいなと
思ってもらえるように」「また使い
たいなと思ってもらえるように」「ま
た読みたいなと思ってもらえるよう
に」。心理士も鍼灸師もどちらも来
談者、患者との信頼関係を作ること
が大事なことは同じです。そしてこの
信頼関係を作るには、支援者の「心
技体」を向上させることが大切です。

「心」…自身の心の成長、人格、人
間力を育てること。哲学を学び、信
念と良心に従って生きること。相手

への思いやりを持ち続けること。

「技」…技術や知識を向上させ、経
験を積むこと。衛生も含め、治療環
境を整えること。来談者や患者が納
得できる説明や関わりを持つコミュ
ニケーション力を高めること。

「体」…自分自身の健康や体力を保
つこと。身だしなみや雰囲気を整え
ておくこと。来談者や患者と共に笑
顔になること。

と考えます。

10年後に残る仕事

生成AIの発達のは速さは驚異的で
す。すでに診断技術では、人を凌駕
しているかもしれません。昨年の11
月末に、経営の神様と言われた松下
幸之助氏を生成AIで再現という
ニュースをみました。産業界だけで
はなく、各分野の偉業をなした方々
の言動、その分野に必要な情報を学
習した生成AIが開発され、それぞ
れの職種で利用される日も近いと思
います。

心理学や東洋医学はAIが苦手と
する感情や感覚的なものを重視する

ので直ぐにはないにしても、いつ
かはとってかわられると思います。

ある中国の老中医師が、中国医学の
極意は「臨機応変にある」と言われ
たそうです。違うもの、違う考えを
受け入れる柔軟さと寛容さこそ心に
まつわる専門職にとっても大切にな
るのではないかと考えます。

私は、AIを拒否するのではな
く、上手く利用し人間ならではの支
援や治療の在り方を考えていきたい
です。そのためには、私たちは、あ
らゆる枠や境界を越えて、最初には
み出していくファーストペンギン
のような勇気と意志をもたなくてはな
らないと思います。

生活していくためにお金を稼ぐこ
とは大事なことです。しかし、お金
に振り回され、職業を分けてどっち
が稼げるかと考えている場合ではあ
りません。心理士と鍼灸師、どちら
も来談者や患者のための仕事です。
広い視野と寛容な心を持って仕事に
取り組み、自己を磨いていけば、何
をしていても10年後にも通用する人
になれると信じます。